

新型コロナ対策を中心に 事業所職員の皆さんへ

～自らと周りの安全・安心の確保とともにメンタルヘルスケアにも配慮を！～

2020.5.8

NPO法人 大阪障害者センター
障害福祉職場のメンタルヘル検討会有志

現在、新型コロナウイルスという未知出て感染症の蔓延の中で、福祉現場や利用者家族にも大きな影響が生じてきています。国が「緊急事態宣言」を行い宣言延長とともに、長期化が予想され、こうした中で新型コロナと共存するため「新たな生活様式」の提案が行われる中で、皆さんも様々な対応をしてきていると思います。しかし、未知なものだけにこれでもいいのかという不安はつきものです、しかも長期化しそうです。自らと周りの安全・安心の確保とともにメンタルヘルスケアにも配慮が必要です。

引くに引けないと日々悩み続けて

—まず自分をほめてください—

誰から感染したのかわからないが、感染しているのが「新型コロナ」です。密集や密接を避けなければならないと言われますが、それを避けがたいのが福祉現場です。そしてステイホームでと言われますが、家族が居宅で見れない、居宅で一人暮らしできないからと必要な福祉を提供してきたのに、誰が見てくれるの・・・。

現場はこうした状況ではないでしょうか、それぞれの立場から、いろいろと言いたいことはあると思います。でもまずは、いまの自分をほめてください。

現場職員は、私も感染するのでは、という不安が絶えずあります。しかし、誰かがしないと、という葛藤・不安もあります。何とか自分や利用者家族を守りたいと不安な中で葛藤していると思います、本当にすごいことです。

なんとか「いま」を皆で乗り越えよう

—自分たちをほめあってください—

そんな思いで、少しでも感染防止・拡大防止につながる様々な取り組みを進められていると思います。しかも、コロナの影響を受けやすい人においては「もしも」がより現実的であり、できることはできる限りとの思いで取り組んでおられることと思います。

何が最善策なのかまだわかりません。皆さんがしていることが最善の策と考える材料・余裕もない中で、オーバーシュート、福祉崩壊を何とか乗り切ろうと、不安があってもみんなで取り組んでおられること自体、すごいみんなの力ではないでしょうか。

「障害児者施設こそ安心安全な場所に」これが当事者・家族そして職員の願い
— 正当な不安を拡散しよう —

職員が過度に不安になること、情報に敏感になりすぎることは注意が必要です。でも、不安や苛立ち等には正当な願いが込められています。国民はこうした情報も知るべきです。自分だけが・自分たちだけが と抱え込むのではなく、拡散していきましょう。

医療現場で始まり、徐々にマスコミなども取り上げ始めている「福祉・介護」の現場の声、私たちの不安や悩みは国民の不安を託されたものです、国民の励ましこそ、いまは活動の源泉ではないでしょうか

国民も感染爆発をなんとかせねばとがんばっています。私たちもその重要な役割を果たすときでしょう、こうした時だからこそ忙しい中でも見ることができた障害者の笑顔をみんなどで、そして少しは気分転換しつつ、乗り越えていきましょう。

障害福祉現場のメンタルヘルス検討会では、緊急でこうした事態に立ち向かう皆さんのお役に立てばとの思いから、現場職員や当事者・家族向けのメンタルヘルスケアのポイントを取りまとめたパンフを準備しました。今回の状況は長期化することも予想され、対応も刻一刻と変化していく可能性があるため、その第一弾として、提案させていただきます。

ぜひ、こうしたパンフ等も広く活用いただくよう呼びかけるとともに、それぞれの状況の下でのメンタルヘルスケア対策も配慮いただくことを強く呼びかけるものです。

【パンフ作成】

NPO法人 大阪障害者センター 障害福祉職場のメンタルヘル検討会有志

研究委員：峰島 厚(元立命館大学)・山本耕平(佛教大学)・大岡由佳(武庫川女子大学)・
深谷弘和(天理大学)

事務局：井上泰司(大阪障害者センター)